

葛飾区行政評価委員会の評価結果案

(第二分科会)

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	環境衛生普及・啓発	所管課	保健所 生活衛生課
-----------	-----------	-----	--------------

1 葛飾区行政評価委員会の提言

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果指標の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業施設を対象としている講習会と区民を対象としている講習会など目的の違う講習会については、目的別に個々の指標で成果を把握する必要がある。 <p>【目標値の設定方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値は、過去の実績値のみではなく、対象となる営業施設数を踏まえて設定する必要がある。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・問題なし
今後の方向性		<p>【講習会の実施について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねずみ防除講習会が主なものとなっているが、今後は、他の害虫等も含め、区民のニーズに合致した講習会を実施するなど、環境衛生に係る情報や知識を区民へ定期的に提供する必要がある。 ・講習会の実施にあたっては、多くの区民が参加できるよう身近な自治町会等の施設を活用することで、地域全体で衛生的な環境維持に取り組む体制を整備すべきである。 <p>【営業施設の自主管理に対する支援体制の強化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業施設が自ら衛生的な環境を維持することの重要性を認識するためにも、営業施設に対する監視指導の結果を踏まえ、指導が必要な施設を積極的に講習会へ参加させるよう働きかけるなど、営業施設に対する支援体制を強化することも必要である。 <p>【区民に対する環境衛生知識の普及・啓発について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蚊の薬剤散布等を実施する中で、自治町会など地域の方々との連携を強化することで、区民に対する環境衛生知識の更なる普及・啓発につながると考える。

2 所管部評価の妥当性

項目		点数	妥当性の概観
実績状況 5点:十分な分析 ができている 3点:普通 1点:分析が不 十分である	成果	2	<p>実績状況(成果)</p> <p>実績状況(コスト)</p> <p>今後の方向性</p> <p>記載の わかりやすさ</p>
	コスト	3	
今後の方向性 5点:妥当である 3点:普通 1点:妥当でない	3		
記載のわかりやす さ 5点:わかりやすい 3点:普通 1点:わかりにくい	2		

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	道路掘削工事指導調整	所管課	都市整備部 道路管理課
-----------	------------	-----	----------------

1 葛飾区行政評価委員会の提言

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果指標の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の実績値をみると、現行の執行体制で成果を上げていると評価できる。 ・事務事業に係る主なコストが人件費であることを踏まえると、業務の効率性を図る指標を設定し、分析・評価する必要がある。
	コスト	<p>【人件費について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記と同様、業務の効率性を図る指標に基づき、コストの妥当性等を検討する必要がある。
今後の方向性		<p>【業務の効率化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請から検査に至る指導調整事務の過程における各業務の内容をデータベース化することで、業務の効率化に係る具体的な検討が可能となると考える。 <p>【区民に対する工事情報の周知について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、苦情・要望件数の増加を防ぐためには、道路工事の目的や理由等を区民に明示するなど、区民に対する周知方法等を工夫する必要がある。 <p>【工事企業者に対する指導方法等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、各工事現場におけるすべての苦情・要望件数を客観的に把握することは困難である。しかしながら、各工事現場における苦情等については道路工事申請者の責任において解決することを承認条件としていることから、道路工事申請者に対する区の指導方法をより強化することも必要である。

2 所管部評価の妥当性

項目		点数	妥当性の概観
実績状況 5点:十分な分析 ができている 3点:普通 1点:分析が不 十分である	成果	3	
	コスト	3	
今後の方向性 5点:妥当である 3点:普通 1点:妥当でない		3	
記載のわかりやす さ 5点:わかりやすい 3点:普通 1点:わかりにくい		3	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	オンラインサービス(ICTを活用した図書館サービス)	所管課	教育委員会事務局 中央図書館
-----------	----------------------------	-----	-------------------

1 葛飾区行政評価委員会の提言

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果指標の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の成果指標では利用者のニーズを客観的に把握しているとは言い難い。したがって、利用者向けのアンケートを実施するなど、成果指標の設定方法を検討する必要がある。
	コスト	<p>【システムに係る管理費用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利便性の向上や教育施設の充実といった視点だけではコストの増加は避けられない。したがって、システムを活用したサービス内容の検討にあたっては、効率性や他の図書館とのバランスも視野に入れる必要がある。 ・ 多くの経費を費やしているが、現時点ではその経費の妥当性に係る検証は困難である。したがって、各システムの導入に伴うコストの変動状況を把握するとともに、コスト意識を徹底すべく、費用対効果を測定できる指標を確立すべきである。 ・ 各システムにおけるリース契約を更新するにあたっては、利用者の要望を明確にしたうえで、最少の経費で運用できるよう経営努力を怠らないことが必要である。
今後の方向性		<p>【利便性の高いオンラインサービスの提供について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセス件数等の活動指標が目標値を下回っていることから、現状ではアクセスしづらい環境にあると考えられる。したがって、ホームページにアクセスし易い環境整備等を検討する必要がある。 ・ サービス提供にあたっては、利用者の声を十二分に把握し、利便性の高いオンラインサービスとなるよう検討を重ねていく必要がある。 <p>【各システムの使用方法等に係る周知について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最先端のシステムを活用し、利用者にとって利便性の高いサービスを提供していることは評価できる。 ・ 各システムの利用方法がわからない来館者もいると考えられるため、利用方法に係る館内の案内表示等を高齢者でもわかりやすいものに工夫するなど、利用案内等を充実させる必要がある。 ・ 平成25年4月開校予定の東京理科大学の学生に対する周知方法等を工夫することで、新たな登録者の拡大も期待できると考える。 <p>【中央・立石図書館と他の図書館におけるサービスの違いについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最先端のシステムを導入している中央・立石図書館における高水準のサービスを他の図書館でも提供すべきかを将来検討する場合には、利用者の意見を取り入れるとともに、維持管理費用やコンセプトに対する利用実績等を必ず分析・評価する必要がある。

2 所管部評価の妥当性

項目		点数	妥当性の概観
実績状況 5点:十分な分析 ができている 3点:普通 1点:分析が不 十分である	成果	4	<p>実績状況(成果)</p> <p>5 4 3 2 1 0</p> <p>記載の わかりやすさ</p> <p>実績状況(コスト)</p> <p>今後の方向性</p>
	コスト	1	
今後の方向性 5点:妥当である 3点:普通 1点:妥当でない		2	
記載のわかりやす さ 5点:わかりやすい 3点:普通 1点:わかりにくい		2	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	CAP講習会	所管課	教育委員会事務局 指導室
-----------	--------	-----	-----------------

1 葛飾区行政評価委員会の提言

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の成果指標「受講者数」のみで「事務事業意図」の達成度を客観的に把握できるとは言い難いため、成果をより適切に把握する方法を検討する必要がある。 <p>【活動指標の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校と中学校では抱えている課題が異なると考えられるので、課題ごとに指標を把握すべきである。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下記の「今後の方向性」に基づき、必要に応じた更なる予算の確保を検討する必要がある。
今後の方向性		<p>【実施内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、いじめ問題等に対する社会的関心が高まる中、現行の「CAP講習会」はいじめ問題等から自分を守るための教育プログラムとして意義があるものと言える。 ・ しかし、子どもを取り巻く「いじめ、誘拐・虐待・性暴力」等の問題は非常に深刻であるため、たとえば「いじめのない学校づくり」といった明確な目的意識のもと、他の事務事業との連携を強化するなど、実施内容の根本的な見直しを行い、更なる充実を図るべきである。

2 所管部評価の妥当性

項目		点数	妥当性の概観
実績状況 5点:十分な分析 ができている 3点:普通 1点:分析が不 十分である	成果	3	<p>実績状況(成果)</p> <p>5 4 3 2 1 0</p> <p>記載の わかりやすさ</p> <p>実績状況(コスト)</p> <p>今後の方向性</p>
	コスト	3	
今後の方向性 5点:妥当である 3点:普通 1点:妥当でない		1	
記載のわかりやすさ 5点:わかりやすい 3点:普通 1点:わかりにくい		2	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	少年の主張大会	所管課	教育委員会事務局 地域教育課
-----------	---------	-----	-------------------

1 葛飾区行政評価委員会の提言

項目		提言内容
実績状況	成果	<p>【成果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年のように葛飾区の児童・生徒が立派な賞を受賞している現状は評価できる。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題なし
今後の方向性		<p>【実施目的について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校における取組状況が異なる中、児童・生徒が自ら進んで参加したくなるような大会とするためには、児童・生徒を主とした「事務事業意図」へと再整理する必要がある。 <p>【募集案内に係る周知方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の小・中学校における校長会に対する周知方法のみでは、児童・生徒に大会の目的や趣旨等が伝わりづらいと考える。したがって、募集案内に実施目的を記載したり、各地域にポスターを掲示するなどして、児童・生徒自らの参加意識を促すような周知方法を検討する必要がある。 <p>【優秀な成績を収めた児童・生徒への機会の提供等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優秀な成績を収めた児童・生徒に対する更なる活躍の場の提供や、受賞作文をより広く区民に読んでもらえるような広報手段の工夫をすることで、本人のモチベーションの向上とともに、他の児童・生徒への意識啓発を図る必要がある。 <p>【大会の運営方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の大会運営においては、当事者である児童・生徒の関わりが少ないように考えられるため、児童・生徒自身のモチベーションの向上のためにも、より多くの児童・生徒が大会運営に直接関わることも必要と考える。 ・ 大会への参加が少ない中学生にとって、魅力的な大会運営となるよう検討も必要である。

2 所管部評価の妥当性

項目		点数	妥当性の概観
実績状況 5点:十分な分析 ができている 3点:普通 1点:分析が不 十分である	成果	3	
	コスト	3	
今後の方向性 5点:妥当である 3点:普通 1点:妥当でない		3	
記載のわかりやす さ 5点:わかりやすい 3点:普通 1点:わかりにくい		3	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	かつしか教室	所管課	教育委員会事務局 生涯学習課
-----------	--------	-----	-------------------

1 葛飾区行政評価委員会の提言

項目		提言内容
実績状況	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・問題なし
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の「今後の方向性」に基づき、必要に応じた更なる予算の確保を検討する必要がある。
今後の方向性		<p>【実施内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者の年齢層が10代から60代までと幅広いため、あらゆる世代の人々の意見を把握し、個々のニーズに合った実施内容を検討する必要がある。 ・新たな登録者の拡大を図る必要性があるかを検証するため、知的ハンディキャップのある方の意見を幅広く把握する必要がある。そのうえで、必要に応じて、実施会場の拡大と実施内容の充実を図るべきである。

2 所管部評価の妥当性

項目		点数	妥当性の概観
実績状況 5点:十分な分析 ができている 3点:普通 1点:分析が不 十分である	成果	3	
	コスト	3	
今後の方向性 5点:妥当である 3点:普通 1点:妥当でない	2		
記載のわかりやす さ 5点:わかりやすい 3点:普通 1点:わかりにくい	3		